【地域活動ノート】

第17回薬局管理栄養士研究会の活動報告

――積極的な活動の発信・アウトプットで、成果の見える化をしよう――

藤田智子*・小口淳美*・川戸麻紀*・内山貴雄*・奥嵜沙恵*・金子侑未*・家辺愛子*
南野知子*・堀由美子*,**・君羅好史**・清水純**・松本明世**・真野博**・内田博之**

活動の概要

薬局管理栄養士研究会は、「保険薬局（以下、薬局）やドラッグストア（以下、DgS）に勤務する全国の管理栄養士が情報交換と相互の連携を図ること」を目的に2006年に発足した。専門職種・業種の枠組みにとらわれず、連携と親睦を促進し、薬局管理栄養士の活動支援や発展および育成に必要な情報収集・発信、意見交換などを活発に行うこととしている。毎年１回の研究会の開催を継続し、2022年には17回目を迎えた。第17回薬局管理栄養士研究会は、前年同様に城西大学坂戸キャンパスを配信会場としてオンライン（Zoom）にて開催したので報告する。

キーワード：薬局管理栄養士研究会、管理栄養士、保険薬局、ドラッグストア

第17回薬局管理栄養士研究会は、2022年11月19日（土）13時30分～17時30分、「積極的な活動の発信・アウトプットで、成果の見える化をしよう」を開催テーマとし、情報提供、口頭発表およびグループディスカッションを行った。オンライン研究会であったが、全国から177名の参加者が集まり、盛会のうちに終えることができた。

プログラムでは、本研究会会長 小口淳美氏（株式会社フォーラル）より、薬局管理栄養士研究会の今後のビジョンと会員化についての説明があり、次いで、I&H株式会社 家辺愛子氏より、薬局・DgSの管理栄養士による積極的な活動の発信・アウトプットの重要性に関する具体的な事例が共有された。口頭発表（４題）では、それぞれの薬局の取組みや本研究会が協力した調査結果が報告され、続いて行われたグループディスカッションでも、口頭発表の内容をテーマに加え、活発な意見交換が行われた。

第17回は、前年に引き続きオンライン開催であったが、全国各地から薬局管理栄養士・関係者に参加と協力をいただき、実施することができた。今後も薬局・DgSで活躍する管理栄養士を中心に、薬剤師や関連職種、薬局管理栄養士を目指す学生など、様々な方との情報交換や情報収集、互いの交流の場として、活発な研究会になることを願っている。

第17回薬局管理栄養士研究会の情報提供・口頭発表の内容、アンケート結果は以下のとおりである。

＜情報提供＞

薬局・ドラッグストアにおける栄養士活動の発信～職能拡大を目指して；I&H株式会社 学術研修部 栄養ケア推進課 家辺 愛子 氏

＊　薬局管理栄養士研究会世話人
＊＊　城西大学薬学部医療栄養学科

＜口頭発表＞

演題１　株式会社パル・オネストの薬局管理栄養士活動について－現在の有料栄養相談－；株式会社パル・オネスト

演題２　在宅専門の薬局が行なったアウトプットの形～自宅から地域までを支える薬局としての活動～；株式会社hitotofrom

演題３　薬局管理栄養士のスキルの評価～模擬栄養指導を通じて見えてきたこと～；株式会社メディカルリンク

演題４　保険薬局・ドラッグストアに勤める管理栄養士・栄養士の就業実態～第14回薬局管理栄養士研究会参加者を対象とした調査結果から～；城西大学薬学部医療栄養学科、株式会社フォーラル

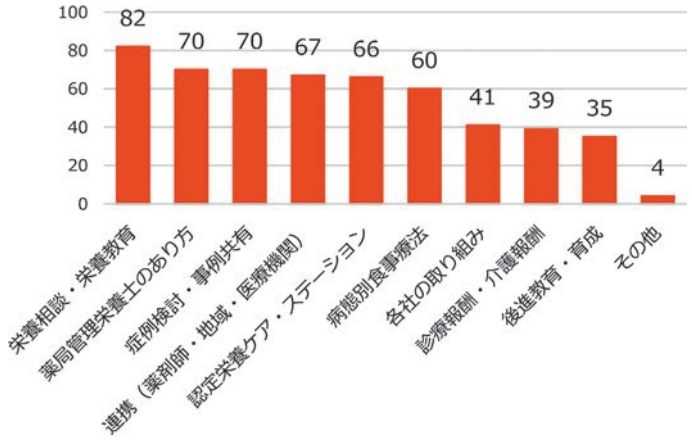
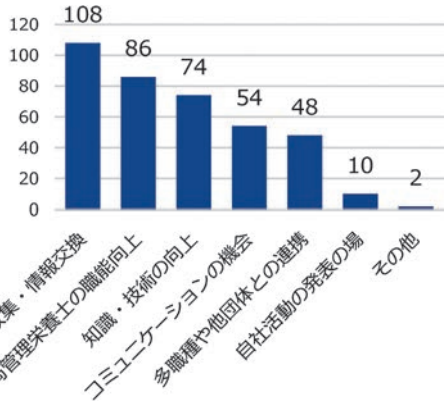
＜アンケート結果（一部抜粋）＞

参加者が最も興味関心を持っているテーマは栄養相談・栄養教育であった。次には、薬局管理栄養士のあり方、症例検討・事例共有、薬剤師・地域・医療連携、認定栄養ケア・ステーションと幅広いテーマに関心があることがわかった。また、本研究会に期待していることは、情報収集・情報交換が最多であるが、薬局管理栄養士の職能ならびに知識・技術向上への期待も大きかった。

なお、本アンケート調査は、城西大学「人を対象とする生命科学・医学系研究倫理審査委員会」の承認を受けて実施した（許可番号：2021－08）。

薬局・ドラッグストアの管理栄養士が年々増加し活動が多様化する中、受け入れる企業側の環境整備が追い付いておらず、経験の浅い薬局・DgSの管理栄養士にとって情報収集の場は貴重である。引き続き、アンケート調査による参加者の意見や希望を収集し、現場に必要とされる情報発信に努め、さらなる職能拡大を目指していく。

今後の研究会で取り上げてほしいテーマ
（自由記載　有効回答534件）



本研究会に期待していること
（複数回答　有効回答382件）